

研究報告

長野県における日米親善人形

——一九二七年の「青い目の人形」——

梅原康嗣

一 はしがき

一九二七年（昭和二）一月一七日、横浜港へ到着した日本郵船のサイベリア丸^①には大正天皇の葬儀に参列する秩父宮とともに、多くの「お人形」が乗船していた。つぎつぎと入港する船であわせて一万二七〇〇体を超える人形がアメリカから日本の児童に贈られてきた。昭和のはじめの日米人形交流は、戦争という苦難の時代を経て、今日ふたたび多くの話題を提供している。

一九七三年、群馬県で発見された人形を取り上げたNHKテレビ番組「人形使節メリー」が放映されたことがきっかけとなり、全国的には、五十周年を記念する展示会（一九七八年）をはじめ、「日米友情交換人形再会式」（一九八三年）、「青い目の人形交流展」（一九八八年）と続き、日本に残る人形がアメリカへ一時帰国した。各県での展示会も続いている。この間、児童文学者武田英子による出版がなされ、中学生英語の教科書にも教材として採用されるなど出版もあいついだ。

一転して、長野県内の状況をみると、長野市立南部図書館で一九七〇年八月に四体の「県内青い目の人形展」が、一九八八年一〇月からは信濃教育博物館で一九体を集めて「日米親善を語る青い目の人形展」が開催され、二〇〇〇年には長野県立歴史館で三体を展示した。二〇〇一年一月ふたたび信濃教育博物館で信州の宝「青い目の人形」展が開催された。人形保存校での学校誌や新聞による紹介はあったものの、全県的狀況を紹介したものは「信濃教育」第一三八〇号のみ

である。当時の記憶を語る人も八〇歳半ば以上に達し、聞き取り調査も今においては難しい状況となりつつある。

今回の調査では、第一に長野県内に残された日米親善人形^②（「青い目の人形」）の現状把握をおこなった（人形の状態、付属品の有無等）。そして第二に各校園で人形に関する文献史料を収集し、当時の新聞記事とあわせながら、エピソードを可能な限り聞き取ることを主なねらいとした。長野県における親善人形の資料集づくりの基礎作業となるものと考えている。調査の過程で事実関係を裏づける史料が学校日誌などに限られ、難航した。したがって、学校に残された史料については、本稿では貴重な側面からできうる限り掲載することとした。調査のなかで、「新青い目の人形」交流とよばれる、一九八五年以降にギュリック三世夫妻による新たな日米交流が展開されていること、所蔵校において、親善人形を核にした総合的な学習が展開していることなど、近年の新しい動きに接することもできた。しかし本稿では親善人形が贈られ、日本からも答礼人形が贈られた一九二七年の状況を明らかにすることを主眼にした。^③

二 高野辰之と日米親善人形

1 世界児童親善会と人形使節

一九二六年（大正一五）、米国において国際親善を目的とする世界児童親善会が

組織された。この年、親善会は日米協会の渋沢栄一会長にあて「世界の平和は子どもから」を趣旨として、米国の児童から日本の児童に、「自分たちの身代わりとして人形を送りたいが、受け入れて頂けるだろうか」との照会があった。この親善会の中心的指導者シドニー・ルイス・ギュリック（一八六〇～一九四五）は、二〇年余を日本でキリスト教の伝道や同志社大学教授などを務め、一九一三年（大正二）病気のため帰国したのちも、日本のため何かと尽くした親日家であった。当時、アメリカにおける日本人移民への感情の悪化は、第一次世界大戦後の不況によってますます激しくなった。特に日本人移民の多かったカリフォルニアでは一九二〇年排日土地法を実施、さらに州議会で排日法案を可決、一九二四年五月米国議会では、日本人移民の門戸を閉ざす「新移民法」を可決している。

このように日米間の国民感情が悪化する中で、ギュリックはこの国内事情を憂慮し、日米間の国際理解の途を図るために奔走した。こうした事情を踏まえて、友情と平和の精神を次代に向けて育てていくことの必要性を痛感し、その方法として親善人形が企画されたのである。親善人形の受け入れに関しては、日米協会渋沢会長の政府に対する折衝によって了承され、推進の運びとなったが、この事業実現のため渋沢は「日本国際児童親善会」を組織し、会長に選任された。

2 米国人形使節と日本政府の対応

世界児童親善会から日本の小学校・幼稚園に贈られる人形は、渋沢栄一を経て文部省が対応することとなった。文部省の直接の責任者は、当時普通学務局長をしていた関屋龍吉（一八八六～一九七七）、補佐役として課長の菊池豊三郎が担当した。

人形は横浜と神戸港に分けて贈られることになり、全部日本総領事のパスポートを首につけてアメリカを発ち、三月三日のひなまつりに間に合うように送られてきた。横浜では到着の日（二月一七日）、関係者はモーニングコート・シルクハットを着用して船まで出迎え、横浜市長夫妻、県知事夫人をはじめ多数の歓迎者でにぎわう中を下船し、直ちに代表人形は関係者に伴われて入京した。文部省で

は、さっそく東京音楽学校に人形歓迎の作詩を依頼し、「人形を迎える歌」が作られた。なお、作詩は長野県出身の同校教授高野辰之、作曲は同音楽学校であった。

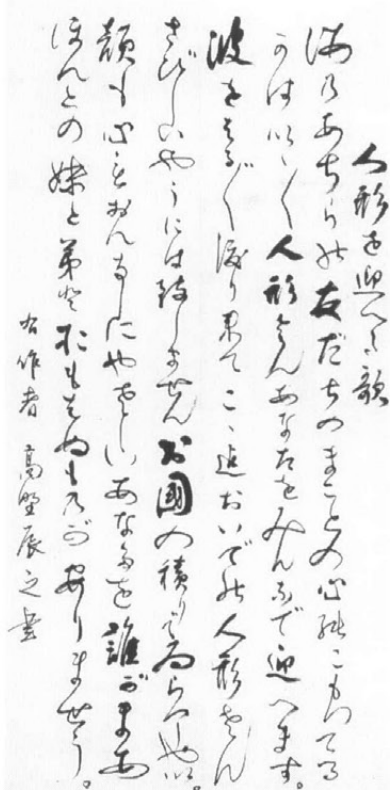


写真1 人形を迎える歌
(おぼろ月夜の館〈斑山文庫〉蔵)

人形を迎える歌

高野辰之作詩 東京音楽学校作曲

- 一、海のおちらの友だちの まことの心のこもってる
かは、く人形さん あなたをみんな迎へます
- 二、波をはるぐ渡り来て こ、迄お出での人形さん
さびしいやうには致しません お国のつもりであらっしゃい
- 三、顔も心もおんなしに やさしいあなたを誰がまあ
ほんとの妹と弟とおもはぬものが ありませう

当時すでに、野口雨情が作詞し一九二一年二月号の『金の船』に発表されていた「青い眼の人形」が流行していた。一九二五年には、日本放送協会のラジオ放送が開始されており、歌の普及に一役かっていた。ギュリックもこの歌の流行ぶりを耳にし、渋沢栄一に対して照会の手紙を送っている。

高野辰之は、当時東京音楽学校の教授を務め、かずかずの文部省唱歌を生み出していた、まさに当代きっての作詞家であった。高野辰之がこの詩を書いた背景には、文部省普通学務局の関屋龍吉の考えがあったとされている。「青い眼の人形」はセンチメンタルだと感じていた関屋が、高野辰之に新たな歌の作詞を依頼

したようである^①。歓迎会など式典においては、辰之作詞の「人形を迎える歌」が歌われたが、残念ながら「青い眼の人形」を乗り越えることはなかった。

文部省は、米国からの一二七三九体の使節人形のうち、一〇三九一体を全国の小学校及び幼稚園に配布した。当時日本の統治下にあった関東州、朝鮮・台湾への配布もあったが、その数は定かでない。一九二七年の全国小学校数二万五五四六校、幼稚園一八二園であったから、全国的にみれば二・六校園に一体の割合で贈られたことになり、希望しても配当をえられなかった学校も多かった。渋沢栄一資料室の資料によれば長野県への配当数は二八六体であった^②（表1）。

表1 都道府県別親善人形配布数と現存数(体)

道府県	分配数	現存数	道府県	分配数	現存数
北海道	643	23	京都	262	7
青森	220	8	大阪	429	4
岩手	263	14	兵庫	373	9
宮城	221	8	奈良	144	4
秋田	190	11	和歌山	177	1
山形	205	11	鳥取	107	2
福島	323	17	島根	182	2
茨城	246	9	岡山	238	3
栃木	213	4	広島	326	4
群馬	142	19	山口	200	4
埼玉	178	12	徳島	152	1
千葉	214	10	香川	102	1
東京	568	10	愛媛	214	5
神奈川	166	9	高地	187	1
新潟	398	10	福岡	259	3
富山	150	6	佐賀	98	1
石川	205	3	長崎	214	2
福井	152	-	熊本	241	2
山梨	129	5	大分	182	5
長野	286	23	宮崎	124	1
岐阜	235	2	鹿児島	209	-
静岡	253	9	沖縄	63	-
愛知	349	10	本省	1212	-
三重	194	9			
滋賀	135	2	合計数	11973	306

(注) 渋沢史料館資料および、松田達也調査により作成。

三 日米親善人形の歓迎

1 長野県の対応と人形受け入れ校

長野県に対する文部省からの人形配当は、二八六体であった。本県配当の人形数では、県内の小学校・幼稚園全体には配布できなかった。一九二七年県内には小学校が四三四校（分教場除く）あり、一・五（配布数が二二五体とすると二・一）校

に一体程度の計算となる。幼稚園は公立・私立あわせ一九園であったから、こちらはほぼ全てに配布されたことになる。

東京から汽車で碓氷峠をこえて県庁へ着いたのが三月三日のことで、その数は二二五体とされている（信濃毎日新聞「三月四日」）。三月一日から三日間県会議事堂で展覧会が開催された（同前三月二日）。県として郡市に対する配当表を設けて処理に当たったよう、新聞記事によれば表2のようであった（「長野新聞」三月六日）。各郡市の配布校を確認できる県文書は現在のところ発見されておらず、

表2 長野県内親善人形配布数

郡市	学校数	配当
南佐久	23	10
北佐久	29	11
小県	32	14
諏訪	24	12
上伊那	32	14
下伊那	52	16
西筑摩	26	10
東筑摩	36	14
南安曇	15	9
北安曇	18	9
更級	25	13
埴科	16	8
上高井	15	10
下高井	21	11
上水内	34	15
下水内	13	8
長野市	10	10
松本市	8	8
上田市	5	5
幼稚園	15 ^③	18

(注) 「長野新聞」をもとに作成。

学校誌や証言によるしかない。表1での二八六体と表2の二二五体には差があり、この理由についてははっきりしない。

受け入れの模様は次のようである。

○全校児童三〇〇人余が講堂に集められてお人形を迎えました。校長先生のお話で紹介された人形の名前は忘れましたが、ずいぶん可愛らしかったと今でも思い出されます。人形は以後ケースに入れられて裁縫室の床の間に飾られていました。私たちはよく逢いにいきました。「学校で人形歓迎会を開きました。そのとき「人形を迎える歌」を歌ったり、「青い眼の人形」の曲に合わせて踊りを踊りました。」（青木尋常高等小学校、現青木中学校、大貫育子の聞き取りによる）

○南小谷（尋常高等）小学校へ来た「青い目の人形」ミミの歓迎会は、昭和二年五月二日に、分校児童も集められて盛大に行われた。この日、塩水まで人形を迎えにいき、講堂で校長先生が紹介したあと、唱歌「青い目の人形」をみんなで歌った。それから一人ひとり前に出て人形を見せてもらった。

その後は、年に一回は祭壇の前に人形を出して、校長先生が話をしたという
〔南小谷小学校開校百周年記念誌「写真で綴る南小谷小学校のあゆみ」〕。

「人形歓迎ノ唱歌一部トドク」〔南小谷尋常高等小学校真木分校日誌、四月一四日〕
「本校ヨリ十日（火）十時頃ヨリお人形ノ歓迎会を致ストノ通知アリ」〔同前
五月七日〕

歓迎会「児童引率致し、お人形の歓迎会に行く」〔同前、五月一〇日〕

日米親善会ヨリ寄贈ノ人形歓迎会ヲ開ク、人形ノ経歴、寄贈者ノ意志等講話、
唱歌、人形歓迎ノ唱歌、人形訪問、祝菓（生徒全部）、閉会、右式ハ第三時ノ
間ニ行フ〔南小谷尋常高等小学校日誌、五月一〇日〕

○「一校長長野県庁ニ出張アメリカヨリ寄贈ノ日米親善ノ人形ヲ持参ス」〔大
正十五年度日誌、川田尋常高等小学校、三月一四日〕

人形を迎える式があり、歌青い目をした人形を毎日のようにうたい、職員室
に時々見にいったことである。

○米国寄贈人形配布受領（日誌、北大井尋常高等小学校、六月一〇日、現小諸東小学
校、塚田正二「青い目の人形展によせて」〔信濃毎日新聞〕夕刊一九八〇年八月九日〕

○昭和二年四月七日に歓迎式をおこなった。同校の職員であった清水保也さん
の証言では、「私が原尋常高等小学校五年の時、校長先生がいただいてきて、
講堂に集まった私たちに人形の説明をしてくれた。寝かして起こすと「ママ
ー」としゃべるし横にするとひとみを閉じる。こんな人形は初めて。不思議
でしょうがなかった」〔南信日日新聞〕一九八五年一月七日、原尋常高等小学校〕

○「（上略）片羽の幼稚園にアメリカ人形到着し、近々歓迎会を開く準備しお
れり（下略）」〔花岡直子『小さな花園』上諏訪幼稚園（現諏訪教育会）、一九九二年）
○「二階に上げ桃太郎、夕焼、靴が鳴る等を歌ひ、お雛様アメリカ人形を見せ
て帰す」〔保育日誌四之組、四月四日〕

「お二階にて武野先生よりお雛様のお話及びジェーンさんの紹介あり」〔保
育日誌紫之組、四月一日〕

「お二階にてお唱歌、幼稚園及び君が代を教える、青い目の人形を大変上手

に唱った」〔同前、四月六日〕

「お雛様をみてジェーンさん『ママー』と言わせたりしてよろこぶ」〔赤之
組保育日誌、一九三一年四月六日、市立松本幼稚園、現重文旧開智学校〕

○昭和二年五月大河原尋常高等小の校長が県庁に出向いて人形を受領する。児
童五二〇人は近くの郵便局から学校まで列をつくり、人形を抱えた校長を出
迎えた。六月一〇日「青い目の人形歓迎学芸会」が盛大に行われ、「歓迎の
歌」を合唱した（大河原尋常高等小学校、現大鹿小学校）。

○ある日校長先生がにこにこして乗合バスから、人形の箱をかかえており、校
門から入ってきました。それからしばらくたって全校生徒が、体操場に集合
し、あらかじめ用意してあった机の上に、校長先生は大事に人形の箱をのせ、
人形について話をしてから、箱より出して見せました。当時女の子で服を着
ている子は一人もいない時代でした。そして「ママ」という声がして、全校
の生徒から先生までがびっくりぎょうてんしました。横に寝かせると目を閉
じて静かに眠りました。その精巧さにただただ驚くばかりで、その時の驚き
と興奮がさめず、人形の話でにぎわいました。「やいおどけたな、あの人形
は泣くぜ。」「寝せるとねえるしな。」「どうやってあの人形をこしたかな、き
っと高いづらな。」〔館報あづみ〕二二二号、奥原文人談要約〕

輪湖校長所用ニテ出県（学校日誌、安曇尋常高等小学校、五月三日）
校長全前夕刻帰任（五月四日）

先般出県ノ際受領セル亜米利加人形（世界児童親善会ヨリ寄贈品ノ）披露ノタ
メ全校児童ヲ集合輪湖校長ヨリ講話アリタリ（五月六日）

○一、米国人形礼状発送す、ポストン・ギューリック宛

二、米国人形児童へ紹介す

米国児童寄贈人形受領証 長野県学務部宛発信（学校日誌、根羽尋常高等小学
校、五月二五日）

○一、亜米利加人形到着（日誌、読書尋常高等小学校、四月四日）

一、第一時亜米利加人形ヲ児童ニ紹介（四月五日）

○一、第一時米國寄贈の人形披露をなす。各組廻覧とす（学校日誌、七久保尋常高等小学校、四月二日）

○米國寄贈人形歓迎会（校務日誌、本郷尋常高等小学校三福分教場、四月三〇日）

○プラットフォームから式の日と同じ、モーニングに、白い手袋の校長先生が、大きな風呂敷包を大事そうに抱えゆっくり、ゆっくり、石段を降りて来た。

駅前の広場に一年から六年までの生徒が両側に整列している前を背の高い校長先生につづいて太った学務委員さん長いあご髭の校医さんが、もったいぶって通って行く。其の後を一年生を先頭に夏の陽に白く乾いた町並の道を此の日のために習い覚えた歌を大きな声で合唱しながら学校へと歩いた。（中略）学校へ着くとすぐ体操場へならび、がやがやおしゃべりをしていたが「気をつけ」の号令にしーんとなって視線が入口に集中した。入って来た校長先生の手のガラス張りの箱の中に栗色の髪の毛薄桃色のつやつやした顔に目をぱちりあいた絵本で見るだけの西洋人形が綺麗な洋服を着て座っていた。「かーわいいなあ！」と生徒の声。高い台の上の校長先生から、「皆さん

遠い国のアメリカから日本中の小学校へ仲よくしましうとこの人形を送って来ました。名前をマアサ・メエと言います。皆さんも大切にしてお可愛がって下さい」といった意味の説明があったあと、テーブルにおかれた箱の中から宝物でも扱うように、そおーと人形がだされました。先生が「皆さんこんにちわ^(ママ)」と言いながらおじぎをさせ頭を上げると同時に「ママー」と言う声に生徒の驚きと喜び……。 （下略、初山玉枝、平和の使者「マアサ・メエ」

「須原」須原明治百年記念事業委員会）

○米國より寄贈の人形到着（三月一六日、上田尋常高等小学校南部校）

○「亜米利加全国児童親善会」から贈られた人形の受領を記録（五月二五日、埴科郡東条尋常小学校）

○数日前寄贈セラレタルアメリカ児童ヨリノ人形本朝会ニ於テ歓迎紹介アリ（日誌、浅川尋常高等小学校、七月一八日）

湖東小学校に入学した年に親善人形を迎えた作家の藤原ていは思い出を次のよ

うに語っている。

この年、アメリカから平和の人形が贈られてきました。諏訪の山奥にまでね。羽織、はかま姿の先生がヒラヒラのフリルのついた人形を見せてくれました。首を傾けたら「ママーッ」って言ったのには、本当に驚いた。アメリカは文化の進んだやさしさのある国だと思いました（朝日新聞「一九八九年一月一六日」）。

文部省は知事に対し、「到着の上は道府県教育会等の団体又は配当を受けたる学校幼稚園等主催となり事情の許す限りなるべく人形歓迎会若くは展覧会等を開催せられたし」という通牒を発した。長野県で人形受け入れを担当した板倉視学は、この文部省の通牒を無視して、各小学校へ宛て発送の荷造りをおこなったため、学務課をはじめ非難の声が高まっていた（信濃毎日新聞「三月六日」）。板倉視学ではなく、岡学務部長の指示という説もあり（長野新聞「同前」）、どちらにしても県庁内部で混乱が生じていたことがうかがわれる。

アメリカから送られた人形には、一体ごとに名前や特徴を記した人形査証と特別旅行免状が付され、さらにギュリックの「人形を受け取られる方へ」の手紙が添えられていた。青木尋常高等小学校（現青木中学校）へ贈られたシンシアには七二九三番の特別旅行免状が残されている。多くの学校では英文のメッセージが添えられていた。

○なつかしい皆様

あなた方を私は「お友達」と申します。何故といふに私たち女の子どもは世界中の女の子さまたちとお友達になりたいのです。それで今あなた方へさし上げやうといふアロアさんは私たちの仲善心の徴であるものです。きっとあなた方は私の組——組の皆に代って私が申します——きつとあなた方は私の組の様子をきいて下さるでせう。私達の組は十一人では十一才から十六才までいろいろちがってゐます。私たちの先生お名前はジャストラム先生といって大変私どもを親切にして下さいます。私は組から選ばれてアロアさんにつけてあげる「なかよしのお手紙」を書くことになっているのです。皆様にこ

の人形アロアさんの名前のいはれを申上げませうね。「アロア」といふ言葉は「仲善」といふことで「仲善」こそお人形さんから皆さまへ届けて貰いたいのです。又「アロア」といふと私たちの方で少女の宗教団の名前でもあります。この宗教団で女の子たちが毎年夏休のいく日かを暮します。かういふ二つのいはれで「アロア」といふ名は私たちから皆さまへの「仲善のお使」として大層嬉しいと思うのです。皆様が悦んでアロアさんを迎へて下さるのでせう。アロアさんは又皆様へ「幸福」をおとけすることのでせう。悦んで下さい。もうアロアさんの出発のお支度はすっかり出来ました。「花のみに」の皆さま方へくれぐれもよろしくとアロアさんに頼んであります。又「世界中のなかよし」のことも心の中からお願いします。アロアさんも勿論同様。

千九百二十六年十二月十九日

アメリカ合衆国マサチューセッツ州ウエストストックブリッジにて
レタ、ヴァン、デ、ボウ

日本のお友達へ（瑞穂小学校）

○親しき日本の友へ

私達は皆様へ此のお人形をお送りする事を非常に幸福に思っています。皆様がお人形の親しいお友達となられる事を望みます。その代り皆様方に対してお人形を大変ほこりとされる事を望みます。

私は日曜学校の女生徒の一員です。私達の年は平均十四才位でございます。私達は先生の助けと聖書の知識とで他人の為にイエス様がなされたやうに愛を捧げる事を希望して居ります。そして又皆様も私達の愛を受けられる事を望みます。

早くお手紙を下さい。

サヨナラ

一九二六年十二月一日

アメリカ合衆国

ミルウォークル、ウイスコーシル、マップル

一三一 番地

ドリス・ロビンソンより（外様尋常高等小学校）

○親愛なる日本のみなさん

私たちのお使いと幸福（しあわせ）を祈る気持ちをお届けしながら、みなさんのひな祭りに、この「マートル ルーイス ヒルズ」をおくること、私たちはとてもうれしく思っております。みなさんがそろってすてきな一日を過ごされるよう願っております。

きっと皆さんは私たちの「少女奉仕団」についていくらか知りたいのではないかと思います。

私たちはおよそ二〇人のメンバーから成り、人々に対して慈善事業をしたり奉仕活動をしたりしております。私たちは、アメリカの花嫁姿のようですが、日本の皆さんにいくらかわかるようにこの人形に服を着せてみました。

心からのごあいさつと私たちの気持ちを申し上げながら、みなさんがひなまつりを楽しくすごされるようお祈り致しております。

ブルーヒル洗礼協会の少女奉仕団

グラディズ マーティニー 書記（大河原尋常高等小学校）

○私たちは、あなたがたにたくさん願いを持ち、私たちのもっとも暖かい友情を表現するこの人形を送ります。

彼女の名前は、ジーンです。そして、あなたがたが彼女に私たちのクラスで作った服を着せ替えることを楽しんでほしいと思います。

私たちは、彼女がひな祭りに日本のお友達と会うことを楽しむことを望んでいます。もし彼女を見たら、私たちのもっとも親切なあいさつで送られたことを知っていただけるでしょう。親愛なる

Priscilla Garnsey

Beatrice B. Jahnson

Arlis Denivelle

Ji-Ann Retcham

John E. Morgan さんにお便りください。

37 Orchard St. Pleasantville ニーヨーク U.S.A (市立松本幼稚園)

○このお人形は、私達の協会の責任者であるエリオット牧師をたたえて、その洋服を着たマーサ・メイです。牧師の願いはこの人形が日本のお嬢さん楽しんであげることです (須原尋常小学校)

2 長野県に残る人形のタイプ

二〇〇一年現在長野県内に残った親善人形は二三体である。アメリカへ里帰りで盗難にあった梓川小学校の一体を含めると二四体が確認されている。以上を表3に示した。

人形は三つのメーカーの製作であった。アベリル・マニファクチャリング社・エファンビー社・ホースマン社のどれかの印が人形の背中に残っている。三社の人形は、背丈一^フ五^{イン}、手足が動き、「ママー」と声を出す装置を内蔵し、目を開閉する。胴は綿パッキングの布ぐるみの人形であった。なお、三メーカー以外の人形もあり、アメリカの児童が自らの人形を送った場合が含まれるのであろう。たとえば、読書小学校や本郷小学校の人形は目を開閉せず、描き眼であり、古いタイプのもと考えられる。

四 長野県からの答礼人形

1 お礼の方法

日本国際児童親善会は「答礼の使者として米国へ人形をおくりましょう」というパンフレットを作成し、実施に関する内容・方法を具体的に示した。この企画は、文部省から各道府県に通知された。これを受けて、本県では学務部長名をもって、米国親善使節人形が配当された県内の小学校及び幼稚園に対し、次のような通牒を発した。

表 3 長野県内の日米親善人形

	郡市名	保存者	旧校名	人形名	製造会社等	パスポート	備考 (贈りもと)
1	小諸市	小諸東小学校	北大井尋高小	メアリー	E・I・H	...	
2	佐久市	泉小学校	桜井尋高小	メアリー・ヘンドレン・イズミ	A・M・Co	110311991	1989.1.4 発見
3	上田市	上田第四中学校	川辺尋高小	不明	A・M・Co	...	
4	小県郡	青木中学校	青木尋高小	シンシア・ウェーン	E・F	7293	マサチューセッツ州スプリングフィールド
5	諏訪市	中洲小学校	中洲尋高小	メリー・アン	E・I・H	...	ケンタッキー州カンパランドの小学校
6	諏訪郡	原小学校	原尋高小	ローズマリー	E・F	...	
7	諏訪市	諏訪教育会	上諏訪幼稚園	ヘレン・ジュリア	A・M・◎・C	5504	ウイスコンシン州ミルウォーキー
8	上伊那郡	七久保小学校	七久保尋高小	不明	A・M・Co	...	
9	下伊那郡	根羽小学校	根羽尋高小	エミー	ホースマン	...	
10	下伊那郡	大鹿小学校	大河原小学校	マートル・ルイス・ヒルズ	E・I・H	2025	コネチカット州ハートフォード
11	飯田市	林 静麿	...	マチコ	A・M・Co	...	
12	木曽郡	須原小学校	須原尋小	マーサ・メイ	A・M・Co	2918	マサチューセッツ州ボストン市
13	木曽郡	木曽幼稚園	木曽幼稚園	不明	A・M・Co	...	
14	木曽郡	読書小学校	読書尋高小	メリー	NC	...	
15	松本市	本郷小学校	本郷尋高小	メアリー・ロー	描き眼	2508	ニュージャージー州サミット
16	松本市	旧重文開智学校	松本幼稚園	ジェーン	E・F	13097	ニューヨーク州プレゼントビル
17	南安曇郡	梓川小学校	梓尋高小	メリー	ドイツ製ビスクドール	...	アメリカ里帰り中盗難にあい、不明
18	北安曇郡	安曇小学校	安曇尋高小	メリー	A・M・Co	...	
19	埴科郡	村上小学校	村上尋高小	ミミー	A・M・Co	...	(箱裏書「カロライナ州ニーナマイセン氏」)
20	飯山市	飯山東小学校	瑞穂尋高小	アロア	E・I・H	...	マサチューセッツ州ウエストストックブリッジ
21	飯山市	泉台小学校	外様尋高小	エリザベス・エッセル	...	9232	ニューヨーク州リード
22	長野市	綿内小学校	綿内尋高小	メリー	E・I・H	...	
23	長野市	川田小学校	川田尋高小	メリー	A・M・Co	...	

※ E・I・H (ホースマン社) A・M・Co (アベリル・マニファクチャリング社) E・F (エファンビー社)

新青い目の人形

1	下伊那郡	大鹿小学校	—	ドロシー	FISHER PRICE	301011989	アメリカ、メリーランド州アデルファ
2	佐久市	泉小学校	—	アリス	...	111041991	アメリカ、メリーランド州アデルファ
3	長野市	綿内小学校	—	ポーラ	...	1505052001	アメリカ、メリーランド州アデルファ

その他の日米親善人形

1	南安曇郡	梓川小学校	—	アン	オレゴン州ポートランドミューリエル・デビッド夫人
2	南安曇郡	梓川小学校	—	マリー	国際文化協会

学甲収第二六〇号

昭和二年八月五日

学務部長

川田 小学校長殿

米国世界児童親善会ヨリ寄贈セラレタル人形ニ関スル件

標記ノ件ニ関シ学甲収第二六〇号ヲ以テ本邦児童ヨリ感謝状又ハ図画、手工品等直接米国児童ニ贈リ不取敢感謝ノ意ヲ表セシメ尚其ノ写ハ其ノ筋ニ於テ他々教育ノ参考資料ト致ス筈ニ付各写一通ヲ取纏メノ上本県宛送付ノ様御依頼致置キタル処右ニツトメ一括本県宛御送付ノ向キ有之処処理上差支有之ニ付曩ニ語彙等シタル通り御煩意相成度

追テ右ノ写御送付ナキ分ハ来ル八月二十日迄ニ本県へ送付ノ様御手配相成度当初は、お礼は無用とのギューリックからの言葉に応じた形で、感謝状や児童の作品を贈ることを想定していた様子がうかがえる。

結構なお人形をありがたう御座いました。あなた方の注意深い然も熱誠のこもった贈物がどれ程子供を喜ばせたか計り知る事が出来ません。

絵や写真で見たりお話に聞いたり、遠い遠いアメリカを今迄えがいてゐたのが、急にお隣のやうに思はれる程子供心に深い感銘を与へました。尚将来この子供達が一人の国民になった時、今日よりも一層お国との交流を深くせやうとする其の基が植付けられた事と信じます。

私共の小学校では子供と協力して貧しいながらお人形の歓迎会を開きました。日本のお雛様をも来賓として、其の前で学芸会を行ひました。お送りする写真に依つて其の情景をお察し下さい。外に同封いたしましたのは、この小学校生徒の作品です。結構な物ではありませんが、取敢えず、御礼の印までに送ります。

(大河原尋常高等小学校)

しかし、状況は一週間しないうちに変更され、お礼の人形を贈ることになった。

学乙収第六八三号

昭和二年八月一三日

学務部長

川田小学校長殿

米国世界児童親善会ヨリ寄贈セラレタル人形ノ答礼ニ関スル件

曩ニ米国世界児童親善会ヨリ本県児童ニ対シ人形寄贈有之タル好意ニ酬ユルタメ今回日本国際児童親善会ニ於テ別冊ノ如キ企画ニ依リ本邦児童ヨリモ答礼ノ使者トシテ人形ヲ送付スヘキ由ニ付右趣旨御賛成ノ上其経費ニ対シ貴校一女児童ヨリ金壹銭ヲ醸出セシメラレ御取纏メノ上来ル九月五日迄ニ振替口座長野五五三五ヲ以テ人形ニ関スル件記才シ本県学務部宛御送付相煩度追テ前冊ニハ八月二十日迄ニ醸出金取纏メトアルモ前記ノ通り九月五日迄ニ本県へ到達ノ様ノ御手配相成度

文部省より示された長野県拠出金予定額は七一五円であった。⁽⁸⁾ 本郷尋常高等小学校では、八月二六日職員会で「人形答礼ニ付、女生一名一銭ヅ、今月末迄ニ集金ノ事」と決めた。川田尋常高等小学校では、九月九日始業式において学校長から「米国児童ニ贈ル可キ寄贈人形寄附金ノ件女児一人一銭」との話があった(昭和二年度学校日誌 川田小学校)。集められたお金は県庁に送られた。

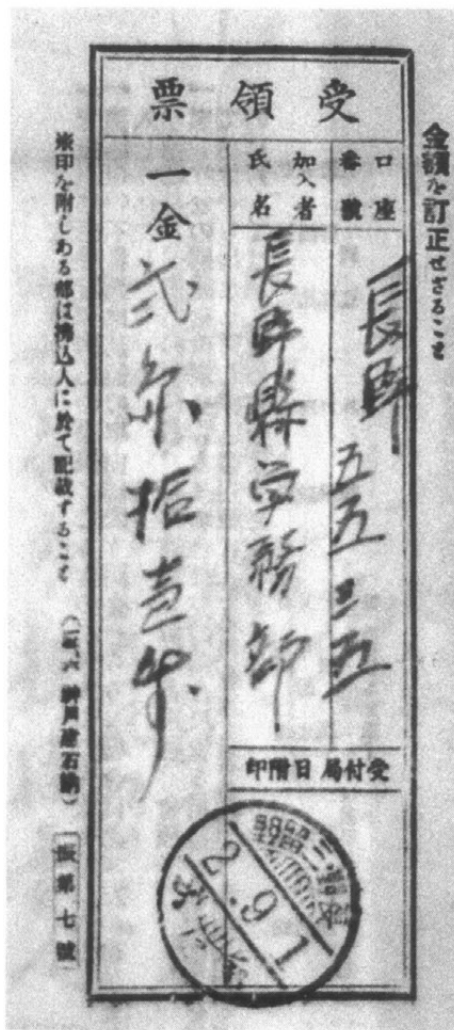


写真2 人形寄付金の送付
(読書小学校蔵)

受領証

一、金貳円四拾貳銭

但シ米国寄贈人形答礼寄附金

右正ニ受領候也

昭和二年九月一九日 長野県学務課長 印

上高井郡川田小学校長殿

木曾郡の読書尋常高等小学校では、二円二一銭分の三留野局消印のある振込用紙が日誌にはさみこまれている(写真2)。安曇尋常高等小学校でも一円一〇銭を同じ九月一日に送付した(学校日誌一)。七二公尋常高等小学校では、三円九三銭の振替用紙が残されている。

南小谷尋常高等小学校では二円七〇銭を送金している。

米国ノ日米親善会ヨリ寄贈ノ人形答礼使トシテ、日本世界児童親善会ニ於テ人形ヲ作製ノ上、米国各州ヘ贈ルニツキ、其費用トシテ、当校女児童ヨリノ拠金、本県学務部宛送金ス

拠金高総計金貳円七拾銭也

内、金貳円五拾貳銭…送金高

金拾八銭 送料費(日誌、南

小谷尋常高等小学校、九月七日)

瑞穂尋常高等小学校の場合、犬飼・柏尾両部校にも趣旨を説明し、集めた費用を九月三日県学務課にあてて送付した。

金 三円一五銭 女児一人当り一銭を
集金



写真3 答礼人形展覧会場(塚田正二蔵)

内訳

本校分 一円五十九銭

犬飼分 九十一銭

柏尾分 六十五銭

さらに本郷尋常高等小学校では、二分教場分を含め三円八八銭を送付した。以上の、現在確認しうる六校の例からみると、児童数をまったく加味しないで考えるとすれば、平均二円八二銭の額が答礼人形製作のために、各学校から拠出されたことが判明する。



写真4 答礼人形展覧会の状況(塚田正二蔵)



写真5 長野県からの答礼人形長野絹子

2 長野県の答礼人形準備への対応

各校園から寄せられた金額はどのくらいになったかを知る手では現在のところ残されていない。各県が用意した答礼人形は三五〇円かかったとされている。

長野県の子供達の代表としては長野絹子さんが行った。身長二尺五寸程の愛情に富んだお人形さんだ。体は三つ折りに出来て手足も自由に動かせる。

値は一五〇円、衣裳は友禅縮緬で下着まで揃っている。帯は本金丸帯その他

一通りの付属品も揃えてある。値は一五〇円、持物は草履・駒下駄・簞笥・

鏡台・日傘などだ。値は五〇円（七二会小学校同窓会誌六号 一月二六日）

先の平均値を元に試算してみると、長野県では二二五校として計算すると、六

三二円にのぼる。唯一の手がかりは、「信濃毎日新聞」（一九四七年九月三日）の

「約八〇〇円に達した」の記事である。二体分にものぼる金額である。

答礼人形を送るに先立ち、県会議事堂で展覧会を実施した。

学乙収第六八三号

昭和二年十月四日

学務部長

川田 小学校長殿

今回日本国際児童親善会ノ企画ニ依リ米国世界児童親善会へ答礼ノ為メ送付

スベキ本県代表ノ人形壱組ニ当庁へ到達致候ニ付テハ来ル十月八日より全

十一日迄（四日間）県会議事堂ニ於テ送別展覧会開催、一般観覧セシメ度候

間、右及御案内候

追テ当日ハ本県児童ヨリ送付セシ童謡及感謝状写シ其他絵画等展覧致候

寄附金を募った小学校へは長野絹子さんの写真が送付された。

学乙発第一八六号

昭和二年十月十九日

学務部長

川田 小学校長殿

答礼人形写真送付ニ関スル件

米国世界児童親善会へ答礼ノタメ送付スベキ本県代表人形壱組ノ写真一葉別

便ヲ以テ本日御送付申上候間、此段及通牒候也

贈られた写真は児童に紹介されたことが七二会尋常高等小学校の学校日誌の

「米国へ贈ル人形長野絹子の写真ヲ各生徒ニ紹介ス」（一〇月二九日）という記事

から理解される。

3 答礼人形送別会

各道府県、朝鮮・台湾・樺太・関東州、六大都市、日本代表の計五八体の答礼人形が用意された。人形の送別会が一九二七年一月四日明治神宮外苑の日本青年館で開催され、代表の一体が壇上に並べられた。人形送別の歌は、迎える時と同様高野辰之の作詞である。

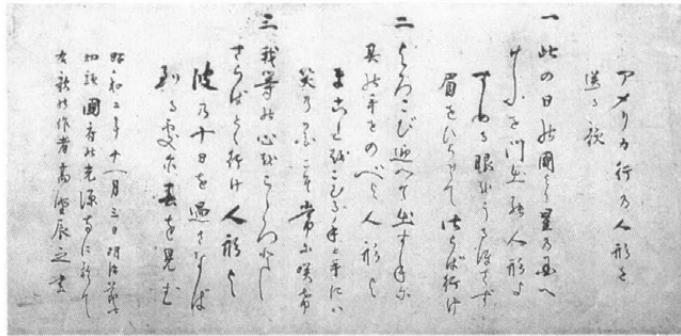


写真 6 人形を送る歌 (新潟県光源寺蔵)

人形を送る歌

高野辰之作詞

島崎孝太郎作曲

- 一 比の日の国より星の国へ
今日を門出の人形よ。
すめる眼をうるほさず、
眉を開きてさらば行け。
- 二 欲び迎えて出す手に
その手を延べよ人形よ。
まことをこむる手と手には
笑の花こそ常に咲け。
- 三 我等が心を心とし
さらばとく行け人形よ。
波の十日を過ぎなば、
いたる所に春を見ん。

この式のなか、日本児童の送別の辞を述べたのは、お茶の水女子師範学校附属小学校三年の松本昌子であった。彼女はこの式典へ参加したことにより、一体の人形を受け取ったという。夫の実家である飯田市に荷物疎開したその人形は、まったく傷もなく無事で保存されている。しかしながら、松本昌子自身は敗戦後の混乱のなか、満州から戻らぬ人となった。

五 おわりに

以上本稿での論点を整理すると次のようになる。

- (1) 一九二七年世界児童親善会から親善人形一万二〇〇〇体余が日本に贈られた。日米間の国民感情が悪化する中で、知日家のシドニー・ルイス・ギューリック博士がその中心的な役割を果たし、日本側は渋沢栄一がその任を果たした。式典や歓迎の意を表す「人形を迎える歌」が、長野県出身の高野辰之の作詞により作られた。しかし、大正期に野口雨情が作詞した「青い眼の人形」が流行しており、現代につながる名曲にはならなかった。
- (2) 長野県には親善人形二八六体が割りふられ、各学校・幼稚園に配られた。配布先は明確にすることはできなかった。遠い海の方このアメリカから贈られた人形に対して、子どもたちは驚きと文化の違いを感じていた。長野県内に残された人形は、アベリル・マニユファクチャリング社製が一〇体と多く、ホースマン社、エファンビー社がそれに続く。
- (3) 初期においては、お礼状や作品などを贈る計画であったが、長野県からも答礼人形が贈られることになった。女兒一人一銭の募金による計画で、長野県ではおよそ八〇〇円にのぼる金額が集められた。拠出した学校には、答礼人形の「長野絹子」の写真が贈られた。一月四日日本青年館で開催された送別会で、高野辰之作詞の「人形を送る歌」が演奏された。

注

1 サイベリア丸には九箱（一六七個）の人形が載せられてきた。このほか前橋丸（一〇箱八三個二月二日）・アングレン丸（一〇箱七八個三月一日）・モンロー丸（一五箱一一二個三月四日）・ライン丸（二〇箱一二二個二月二日）・メドン丸（二〇箱一四七個二月二六日）・鳥羽丸（一箱一〇〇三個三月六日）・リスボン丸（三三箱三〇九個三月一〇日）・プレシデンドピアス号（二箱三三五個）・リンコルン丸（一七箱八一九個）・安洋丸大洋丸（二箱二四個）に分船してきた（「人形積載船舶到着豫定」）

および「アメリカヨリ寄贈セラレタル人形配布ニ関スル調」(渋沢史料館蔵による)。これらのうち、長野県へは、前橋丸(一四七)・ライン丸(七八)・リスボン丸(六一)の三船が該当する(同前所蔵史料)。渋沢史料館に所蔵されている関連史料は、「国際親善人形ニ関スル往復書翰及書類」(ファイイル二冊)であり、その多くは『渋沢栄一傳記資料』第三八巻に収録されている。

2 一般にこれらの人形は、「青い目(眼)の人形」と呼ばれ親しまれている。本稿であえてこれらの通称を用いなかったのは、県内に残存する人形の多くが、実際は青い目と呼ぶにはやや抵抗があったことによる。また、渋沢史料館所蔵の英文パンフレットには、『Doll Messengers of Friendship』や『The Friendship Dolls』という表記がみられる。同様に当時は「友情人形」や「親善人形」の訳を用いた史料がみられることから、本来の趣旨を尊重するため「親善人形」を用いた。

3 第二次世界大戦中の親善人形をとりまく長野県の教師たちについては、拙稿でそのエピソードを中心に「青い目の人形」と信州の教師たち(『信濃教育』一三八〇号、二〇〇一年一月)にまとめた。

4 武田英子『人形たちの架け橋―日米親善人形たちの二十世紀―』(小学館文庫、一九九八年、五八ページ)。

5 人形現存数は、二〇〇一年一月現在を示した(本データは香川県の松田達也氏の提供による)。これまでの聞き取り調査のなかで、現存はしないが、贈られた可能性のある長野県内の学校・幼稚園は、高島(諏訪市)、豊洲・小百合(須坂市)、黒沢(三岳



写真7 ドイツ製ビスクドール
(梓川小学校旧蔵)

村)、軽井沢(軽井沢町)、安茂里(長野市)、山田(高山村)、会地(阿智村)などがある。学校日誌によって確認されたものとしては、浅川・七二会(長野市)、妻籠(南木曾町)、都住(小布施町)、高井(高山村)、豊井(豊田村)などがある。

6 「長野県統計書」によれば、一九二七年の幼稚園の数は一九であるが、「昭和二年五月一日現在長野県学事関係職員録」では幼稚園数は一五(市立松本、私立上諏訪、私立伊那、飯田仏教、慈光、私立末曾、野中、稲荷山、小百合、旭、聖十字、私立鈴蘭、私立梅花、私立常田、私立若草)となっている。

7 アヴェリル・マニユファクチャリング社製は上田第四中学校、安曇小学校、川田小学校、南小谷小学校、木曾幼稚園、泉小学校、七久保小学校、村上小学校、須原小学校、林静磨蔵である。ホースマン社製は小諸東小学校、中洲小学校、大鹿小学校、飯山東小学校、綿内小学校、根羽小学校蔵である。エファンビー社製は原小学校、重文旧開智学校、青木中学校蔵である。その他には、ドイツ製のビスクドールの梓川小学校蔵(盗難にあい現存せず、写真7)、諏訪教育会所蔵人形は「A・M・C」と刻印されている。読書小学校蔵はZC、本郷小学校蔵は描き眼である(口絵参照)。

8 「各府県釀出金豫定額」(渋沢史料館蔵「国際親善人形ニ関スル往復書翰及書類」)。寄贈を受けた小学校幼稚園が一万七五九校で学級数を平均一〇、一組児童を五〇名と仮定し、そのうち女兒を半数とすると一人一銭を拠出すれば二万六九〇九円となる。この計算式によれば、長野県は二八六校×一〇組×五〇人を二で割り、七二五円が算出される。